

春A 01ZZ515

テクノロジーとグローバルで拓く未来



未来を拓いて行く為には、グローバルに考え・行動する事と、テクノロジーの活用（特にDisruptive Technology）が重要である。

世話教員

- 野村 港二（大学院共通科目委員会委員、生命環境系・教授）
- 坪内 孝司（教育企画室長、システム情報系・教授） ● 石田 東生（特命教授）

担当教員

高原 勇 *Isamu Takahara*

筑波大学未来社会工学開発研究センター長 特命教授

プロフィール 1988年トヨタ自動車株式会社入社。クラウン・レクサスGSなど新型車両の設計開発を担当。グローバル開発、設計革新の全社リーダーを経て、BR-VI室長、VA開発部長、BR-未来社会工学室長を務めて現職に至る。現在は総合科学技術・イノベーション会議に係る内閣府協議会、経団連、産業競争力懇談会の委員として、次世代自動車交通基盤の研究内容を提言。筑波大学未来社会工学開発研究センター長及び特命教授。博士（社会工学）。

キーワード

自動運転、燃料電池自動車(FCV)、MaaS、Society5.0

第1回
4/24
【水】
13:00~

筑波大学

● モビリティイノベーションの社会応用（1）

前半は自動運転、燃料電池自動車、IoT車両情報に代表されるセンシング機能の技術革新について情報共有を行う。後半はその社会応用として、産業競争力懇談会に提言した社会応用の提言策を分析しながら、グループワークによる自身の考えから社会像を描く演習を実施する。

第2回
5/8
【水】
13:00~

筑波大学

● モビリティイノベーションの社会応用（2）

前半は、シェアリング、コネクティッドによるデータ利活用の可能性と筑波大学キャンパスで計画するキャンパスMaaS・医療MaaSについて情報共有を行う。後半は関係する研究論文と社会制度と新たな社会サービス創出について演習を実施する。

第3回
5/15
【水】
13:00~

トヨタ自動車(株)
都内関連施設

● 講義のまとめと全体を通しての次世代自動車による自動車交通基盤に係るパネルディスカッション

第1回目、2回目等で講義した水素燃料電池自動車、パーソナルモビリティを体験することを通して、全3回の講義のまとめと全体を通しての次世代自動車による自動車交通基盤に係るパネルディスカッションを実施する。



写真は昨年度までの授業風景です。